

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1988. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 50

日本野鳥の会 埼玉県支部

TOKYO BAY

(1)はじめに

“東京湾” — さて、あなたは何を連想しますか。巨大なゴミ捨て場、廃水の流れこむ汚ない海、それとも、最近流行のおしゃれなベイ・エリア？ 干潟を走り回るシギやチドリ、波間にただようスズガモの群れを思いうかべた方、かなりの鳥好きとお見受けします。

そうなのです。一見、鳥とは縁の無さそうな東京湾、実は、シギ・チドリ・カモなどの渡り鳥の一大渡来地であり、ある鳥にとっては、生まれ故郷。そして、私達にとっては、県内ではめったに見られない海辺の鳥達との出会いの場でもあるのです。

数ある東京湾の探鳥地の中から、代表的な4カ所をご紹介します。これらの探鳥地が楽しいのは、8月中旬から5月中旬。春秋のシギ・チドリ、冬のカモやカモメ類の観察をおすすめします。車を利用すれば、1日で全部回ることもできます。もちろん、1か所を1日かけて、じっくり見るのもよいでしょう。

(2)多摩川河口

京浜急行大師線、小島新田駅で下車、改札を出たら左へまっすぐ進みます。徒歩約10分。つきあたりの土堤を上ると、多摩川の川面が広がります。対岸は羽田空港、こちらは鳥たちの国際空港。岸辺の干潟、アシ原、川の中洲に、旅の途中のシギやチドリが集まります。手前の岸辺には、ハマシギ、トウネン、シロチドリなど小さな鳥が多く、オオソリハシギやオグロシギなど大型のシギは、中洲の干潟がお気に入り。時折、サルハマシギ、アカアシシギ、ミユビシギも姿を見せます。昨年9月の探鳥会には、シベリアオオハシシギが登場しました。

採餌に忙しいシギとは対照的に、中洲でのんびり甲羅干しならぬ翼干ししているのはカワウ、小舟のかげではカルガモがお昼寝。アシ原にたたずむサギ類の優雅な姿もお見逃しなく。

冬のカモ類・カモメ類も気になる存在。ポ

ナパルトカモメやコスズガモなど、珍鳥の記録も絶えません。

(3)大井野鳥公園・汐入の池

市場移転問題に揺れていた大井ですが、5年前に野鳥公園の拡大が決定。現在、その工事が進んでいます。新装オープンは来年秋。なお、従来の野鳥公園や汐入の池は、工事中でも観察できます。

JR品川駅東口から、大井町行きの都バスに乗り、東京港野鳥公園で降りるのがいちばん楽（徒歩3分）ですが、モノレール流通センター駅から、京浜運河や大井第七公園周辺の緑地に鳥影を探しながら歩いてくるのもまた一興（徒歩20分）。観察広場に着的いたら、まずは“バン”の池をのぞいてみましょう。その名の通り、バン・オオバンはこの常連。ほかに、春秋の渡りの小鳥、夏はオオヨシキリ、コアジサシ、冬はカモにトラフズクと、四季折々、さまざまな鳥がやって来ます。

シギ・チドリを見るなら、やはり汐入の池。公園を出て左へ、つきあたりをまた左へ折れると、池を見渡せる城南大橋に出ます。池の周囲は立入禁止ですので、橋の上から観察しましょう。コアオアシシギ・ウズラシギ・ヒバリシギなど内陸性のシギの姿が見られます。時にはセイタカシギの10羽前後の群れも。橋の反対側の“虹の干潟”には、ハマシギ・キョウジョシギ・ダイセンなど。

(4)行徳野鳥観察舎

営団地下鉄東西線、行徳駅から徒歩20分。道がちょっとわかりにくいので駅前の案内図をよく見てからスタート。アシに囲まれた小さな水路が左手に見えてきたら、双眼鏡の用意をしましょう。ここはもう、バードランド・行徳の玄関口。アシの陰から、バンがひょっこりご挨拶。初夏にはオオヨシキリが、にぎやかなジャズで迎えてくれます。この水路で、セイタカシギにご対面、ということも。セイタカシギはこの行徳で少数が繁殖しています。

左手前方に光る大きな池、そのほとりの行

クロツラヘラサギ越冬記録

1987年12月20日、埼玉県初記録（日本野鳥の会埼玉県支部研究部 1987）として飛来して以来、クロツラヘラサギ（若鳥）の観察を週3～4回1988年3月まで行ないましたので、報告致します。

- 1) くちばしがあずき色であり、飛んだ時翼の先が黒いことから若鳥（高野 1982）と思われる。
- 2) 早朝と夕方にほぼ決った場所で採餌を行い日中は決った数カ所の浅瀬で休んでいる。
- 3) 休む際は、熱の発散を少しでも減らすためか片足だちで首を後方に曲げヘラ先を羽で隠すようにしている。しかし、必ず目は羽から出している。
- 4) 採餌の際は、くちばしの基部位まで水に入れ、頭や目まで水に入れない。くちばしを半開きにして左右に振りながら、水深15cm位、下のやわらかい所を歩きまわり、時々首を上げて餌を飲むようなしぐさをする。餌の種類は、確認できなかった。中洲の枯れた草をつついていてもまれにあった。
- 5) 人間が接近できるのは約50mまでであった。
- 6) 飛びたつ時は助走をしない。くちばしや首を前方に伸し、足もまっすぐに伸した状態で飛ぶ。飛翔時の羽の動作はサギより早く、

スピードはコハクチョウと同速度位。

- 7) アオサギ・コサギと一緒にいることも多かったが、群れ行動ではなく採餌などの行動は単独で行っていた。終認近くになると、完全に単独となっていた。
- 8) 羽づくろいは、しゃもじ形の長いくちばしを使って行い、届かない部分は足で行っていた。
- 9) 鳴き声は一度も聞くことができなかった。
- 10) 終認近くになると、やや冠羽が伸びてきたと思われる。
- 11) 終認は前後の観察より3月15日と思われる。この時は、阪東大橋の約2km上流烏川の河原にいた。
- 12) 4月10日の渡良瀬遊水池での支部探鳥会でクロツラヘラサギ（若鳥）1羽が観察されており、同一個体の可能性も考えられる。
(林 滋、町田好一郎、北川慎一)

< 文 献 >

- 日本野鳥の会埼玉県支部研究部 1987
埼玉県産鳥類リスト しらこぼと No.32 6-8
日本野鳥の会埼玉県支部 浦和
高野伸二 1982 フィールドガイド 日
本の野鳥 118 日本野鳥の会 東京



クロツラヘラサギ（1987年12月31日 本庄市阪東大橋下流 金井祐二撮影）



白幡沼だより

海老原美夫 (浦和市)

5月24日朝、雨が降り続いて白幡沼も増水。カイツブリの巣が沈没しそうで大変。

「鳩の浮巢」なんていうけど、そうプカプカ浮くもんじゃない。白い卵が4個丸見えになってしまって、巣は崩壊寸前。カイツブリ夫婦は一生懸命潜っては巣材をくわえてきて、補強作業。

ところが、その下の葦を、体長1mくらいの大きなコイが揺らす。コイは水面に体半分までのりだし、葦に体をすりつけすりつけ、さかんにバシャバシャ産卵行動中。カイツブリのことなんか眼中になし。

怒ったのがカイツブリ夫婦。コイツめ、コイツめ、揺らすんじゃない、なんて、コイをつつく。そうすると多少気にするが、またすぐ揺らし始める。



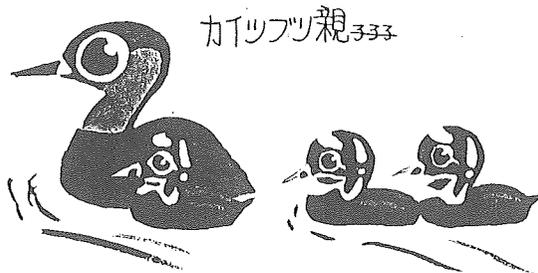
何度も行きたい、三宅島('88.4.23.間鼻にて)

カイツブリは潜ったり、巣材をくわえてきたり、コイをつついたり、おおいそがし。

さてこの結末は。

翌朝、巣も卵もあとかたもなく、しかしカイツブリ夫婦はなみだひとつ見せずに、あらたな巣を作る場所を探していた。けなげですな。

ご心配なく、この夫婦は去年はなんと9回も巣を作り直し、卵を生み続けた実績があります。



(カット・佐藤晶人)

バードフォト コンテスト

11月に予定しているパネル展などのため、県内に生息する野鳥のいきいきした写真を大募集!!

募集期限：8月末まで

応募資格：支部会員ならどなたでも

(1人何点でも可)

応募方法：キャビネ判のプリントにネガ(スライド)と200字くらいの短文(『しらこぼと』表紙写真の文章のような)と、撮影データ(撮影年月日・場所・鳥種名など)

を添えて、事務局までお送りください。
ご注意：巣のまわりで細工するなど、マナーに反して撮影された写真はいっさい受け付けません。

役員会で審査して、入選作はパネル展のほか、『しらこぼと』の表紙など、さまざまな支部活動に1年間使用させていただきます。1年たちましたらネガはお返します。

せっかくの写真をしまいこんだままなのはどなたですか。この機会にぜひどうぞ。

- アマサギ** ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬B区で4羽(福井 亘)。◇5月1日、本庄市の阪東大橋下流で夏羽8羽(林 滋)。
- ササゴイ** ◇5月1日、鶴ヶ島町高倉の池尻池で2羽(宮内武昭)。
- サシバ** ◇4月9日午後5時、鴻巣市大間2丁目上空を4羽が旋回しながら上昇(榎本秀和)。
- バン** ◇5月9日、浦和市の白幡沼でヒナ2羽。かわいかった(海老原美夫)。
- タマシギ** ◇5月4日午前11時、浦和市秋ヶ瀬B区で♂♀各1羽(渡辺喜八郎)。5月7日、同所で♂♀各2羽。それぞれ、つがいのようなだった(福井 亘)。
- キョウジョシギ** ◇5月1日、浦和市秋ヶ瀬A区で1羽(福井 亘)。
- ウズラシギ** ◇5月1日、浦和市秋ヶ瀬A区、B区で、それぞれ各1羽(福井 亘)。
- ハマシギ** ◇5月1日、浦和市秋ヶ瀬A区で1羽(福井 亘)。
- エリマキシギ** ◇5月5日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(福井 亘)。
- クサシギ** ◇5月1日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(町田好一郎)。
- キアシシギ** ◇5月1日午前6時30分、本庄市の阪東大橋下流で3羽(林 滋)。◇5月5日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(福井 亘)。◇5月13日、川口市木曾呂の芝川で1羽(横沢孝文)。
- チュウシャクシギ** ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬B区で2羽(福井 亘)。◇5月1日、幸手市中原の田圃で2羽(秋間利夫)。
- オオジシギ** ◇5月14日、浦和市秋ヶ瀬B区で「ズビャク、ズビャク」とディスプレイフライトをする(福井 亘)。
- アカエリヒレアシシギ** ◇5月8日、川本町

ごめんなさいコーナー

前月号(No.49)7ページ野鳥情報、マヒワの越冬ではなく、越冬はコゲラでした。訂正し、お詫びいたします。

の明戸堰上流で3羽(遠藤薫、神場真文、中里隆介、渡辺 敦)。◇5月10日、浦和市三室の北宿大橋の上流で♂♀各1羽(金久保美智子)。

アジサシ ◇5月4日、本庄市の阪東大橋下流でコアジサシの群れの中に1羽(町田好一郎)。

ジュウイチ ◇5月12日、大滝村の荒川上流で1羽(原田秀雄)。

カッコウ(初認) ◇5月4日、大宮市の大宮公園で(森本陽子)。◇5月7日、桶川市のホンダエアポート付近で(立岩恒久)。◇5月12日、川越市下広谷で(鈴木暁子)。◇5月13日、浦和市本太で(藤野富代)。◇5月14日、浦和市秋ヶ瀬B区で2羽が鳴きながら、追いかけあう(福井 亘)。◇5月16日、大宮市日進町で(森本國夫)。◇5月19日、鴻巣市大間の雑木林で(榎本登志枝、みち子)。◇5月22日、志木市本町2丁目(藤原寛治)。

ツツドリ ◇5月8日、横瀬町の泉民の森付近で鳴き声(鈴木暁子)。◇5月13日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(海老原美夫)。◇5月17日、大滝村の荒川上流で鳴き声(原田秀雄)。

ホトトギス ◇5月9日、川本町本家で1羽(小淵健二)。◇5月18日夜、大宮市日進町の自宅上空で鳴き声(森本國夫)。◇5月25日午後9時40分、大宮市上小町の自宅上空で鳴き声(鈴木高士)。

アオバズク(初認) ◇4月29日、越谷市桜井地区で1羽。だいぶ疲れている様に見える(山部直喜)。◇5月3日午後10時50分、鴻巣市大間1丁目の雑木林で10分間ぐらい鳴く(榎本登志枝、みち子)。◇5月10日午後11時、浦和市皇山町で鳴き声が、しばらくの間聞こえる(星崎杉彦)。

ヤマセミ ◇5月6日、秩父湖で2羽(原田秀雄)。

アカゲラ ◇5月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。

コヒバリ? ◇4月17日午前11時30分、川越市の伊佐沼北側の土手下、干潟状になっている所で1羽、約30分間観察した。

くちばしは短くずんぐりしていて、肩羽の模様や尾羽のところの白い線が、はっきりしていた。冠羽はまったくなく、耳羽、胸の縦じまも明瞭だった。たたんだ時の初列風切と3列風切の長さは分からなかったが、全体的な形状、色彩からコヒバリと判断した。写真はうつしたが、はっきりわかるほどには、うつっていなかった(前田真人)。

ハクセキレイ ◇4月28日、浦和市桜田の新大宮バイパス沿いのトヨタ自動車工場隣の電柱で38羽が囁をとっていた(福井 亘)。

ビンズイ ◇5月1日、上尾市の上尾大宮ゴルフコースの桜の林でさえずる(立岩恒久)。

サンショウクイ ◇5月5日、上尾市の上尾大宮ゴルフコース上空を「ピリリーン、ピリリーン」とさえずりながら北東方向に飛ぶ(立岩恒久)。

ヒレンジャク ◇5月2日、越谷市大間久里の自宅付近で13羽。5月6日にも8羽観察した(神場真文)。

ヤブサメ ◇4月21日、入間市宮寺の狭山丘陵西部で1羽(渡辺 敦)。◇5月4日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。◇5月4日、寄居町桜沢南飯塚で1羽(小淵健二)。

オオヨシキリ (初認) ◇5月3日、浦和市の国昌寺前のアソ原で2羽(楠見邦博)。◇5月4日、本庄市の阪東大橋下流の枯れアソの枝で5羽(町田好一郎)。◇5月5日、桶川市のホンダエアポート付近の柳の木に10羽(立岩恒久)。

エゾムシクイ ◇5月1日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森及び子供の森でさえずる。(福井 亘)。◇5月1日、大宮市日進町で2羽。5月4日にも1羽(森本國夫)。◇5月1日、上尾市の上尾大宮ゴルフコースの雑木林で3羽(立岩恒久)。◇5月5

日、志木市本町の自宅近くでさえずる(藤原寛治)。◇5月9日、川本町本田で1羽(小淵健二)。

センダイムシクイ ◇5月1日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽(宮内武昭)。◇5月2日、大宮市丸ヶ崎の中原公園で1羽(金子真理)。◇5月4日、大宮市日進町で2羽。5月9日にも1羽(森本國夫)。◇5月14日、蕨市の蕨高校で1羽保護する(福井 亘)。

キビタキ ◇5月1日、鶴ヶ島町の高倉の林で♂1羽(宮内武昭)。◇5月8日、浦和市秋ヶ瀬ピクニックの森で♂1羽(探鳥会居残り組)。5月13日にも♂1羽(海老原美夫)。◇5月9日、川本町本田で♂1羽(小淵健二)。

オオルリ ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽(福井 亘)。◇5月1日、鶴ヶ島町の高倉の林で♂1羽(宮内武昭)。◇5月13日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂1羽(海老原美夫)。

クロジ ◇4月29日、鶴ヶ島町の高倉の林の篠の中で♂の若鳥1羽(宮内武昭)。◇5月5日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♀2羽(福井 亘)。◇5月5日、大宮市日進町でさえずる(森本國夫)。

アトリ ◇4月29日、鶴ヶ島町高倉の池尻池付近で♀1羽(宮内武昭)。

マヒワ ◇4月21日、入間市宮寺の狭山丘陵西部で7羽(渡辺 敦)。◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で10羽(福井 亘)。

コムクドリ ◇4月24日、浦和市のさぎ山記念公園付近で1羽(神場真文)。

オナガ ◇4月24日、鴻巣市大間1丁目上空を130羽以上の群れが南西から北東へ通過。翌日も約40羽の群れが同様に通過(榎本みち子)。

表紙の写真

タカブシギ (シギ科)

僕がこの鳥を初めて見たのは、バードウォッチングを始めてまもなくの頃でした。その頃は鳥の名前もろくに覚えておらず、ましてシギの判別なんてとうていできる事ではありませんでした。

しかし、探鳥会で「タカブシギは背中の中のうろこ模様で判別できる」と教えてくれた人がいました。この写真はその頃を思い出しながらとったなかの1枚です。

(写真と文・佐藤晶人=中学生)



三芳町・多福寺探鳥会

期日：7月3日（日）

集合：午前8：45分 東武鉄道上福岡駅北口
または午前9時30分 多福寺駐車場
（上福岡駅の場合、その後バス利用）

交通：埼京線大宮8：13発→川越8：33着、
東武東上線乗り換え8：37発→上福岡
8：42着 / 武蔵野線南浦和8：08発
→北朝霞8：19着、東武東上線乗り換
え、朝霞台8：29発→上福岡8：42着

解散：午後1時ごろ

担当：福井恒人、藤原寛治、黒田佳子

見どころ：雑木林の初夏景色。しっとり潤った木立、雨上りの雑木林もまた素敵です。見上げれば、雫の光る葉を揺らして通り過ぎる小鳥の親子達。餌をねだって甘えつつも、一人立ちのために勉強中の子供達を励ましてあげませんか。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：7月9日（土）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：川越線大宮7：52発→川越8：17着、
東武東上線乗換え8：19発→坂戸8：34着、越生線乗換え8：37発→川角8：46着 / 東上線急行川越8：29発→坂戸8：43着、越生線乗換え8：46発→川角8：55着

解散：午後2時ごろ

担当：中島康夫、楠見邦博、草間和子、藤野

ある日はむしむし、次の日はぎらぎら。だけど、こんな季節こそ家にいるより探鳥会。河原に走る光、飛び散るしぶき、雑木林をゆきかう影の涼しさが嬉しいのです。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡などです。

参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。特に指定無い限り予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

富代

見どころ：清流ぞいの散策がうれしい季節です。梅雨明けも近づき、夏の日差しが照りつけるようになると、涼しげな河原が恋しくなるもの。カワセミの声や光、水しぶきを上げる水鳥の親子達が一層のさわやかさを演出します。

熊谷市・大麻生探鳥会

期日：7月10日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着 / 秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着

解散：午後1時ごろ

共催：埼玉県

担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、岡安征也

見どころ：ダイビングの爽快感を味わいに来ませんか。と言っても、見るだけですが、コアジサシやカワセミが繰り返しダイブするのを見ていれば、たとえどんより空だろうとギラギラ太陽だろうと、うーん、気分すっきり。



浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月17日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田
実、手塚正義

見どころ：繁殖期の賑わいも今年はこれが最後です。カルガモの子供も、もう来月には子供らしくなくなりますよ。賑やかなさえずりも、聞き納めですよ。

ワイワイガヤガヤ・スライド大会

とき：7月24日（日） 午後2時～5時

会場：浦和市立コミュニティセンター2階第
1講座室（浦和駅西口から県庁通り西
進、中山道を左折して約600m右側）

案内：暑い日には、涼しい室内でスライドを見
てすごしませんか。土曜日の定例会には
出られないとご不満だった方、なんとなく
機会がなくてせっかくのスライドを秘
蔵したままだった方、この機会にぜひど
うぞ。定例会で発表した作品でも、この
際自信作を皆さんにもう1度。野鳥に限
らず、植物などの自然生態写真、探鳥会
などの人物写真も。事前受付は必要あり
ません。当日会場までご持参ください。
見るだけの人ももちろん大歓迎。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月30日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：浦和市立コミュニティセンター2階
第1和室（浦和駅西口から県庁通り西
進、中山道を左折し約600m右側）

案内：暑い暑い夏の午後は、涼しい部屋で袋
づめして、冷たいものでも飲んで……。

野鳥写真クラブ定例会

とき：7月30日（土） 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：24日だけでなく、定例会もよろしく。



浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：8月21日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

共催：埼玉県

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田
実、手塚正義

見どころ：秋のさきがけを探してみませんか。
河原にシギ・チドリ、林縁にコムクド
リ、秋の使者達はもう来ています。秋
めいてきた空を通り過ぎる姿は何です
か。

神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：9月10日（土）

集合：午前9時30分 京浜急行大師線小島新
田駅前

交通：京浜急行線品川8：59発→京急川崎9
：15着、大師線に乗り換え、9：17発
→小島新田9：27着

解散：午後2時ごろ

担当：横山みどり、杉本秀樹、中島康夫、楠
見邦博

見どころ：シギ・チドリ、秋の賑わいの時。
残暑厳しい時期ですが、東京湾の干潟
は今が一番面白い時。この機会に海辺
のシギ・チとなじみになりましょう。
珍しいお客さんにも会えるかも。

（カット・押川歳子、鈴木高士）

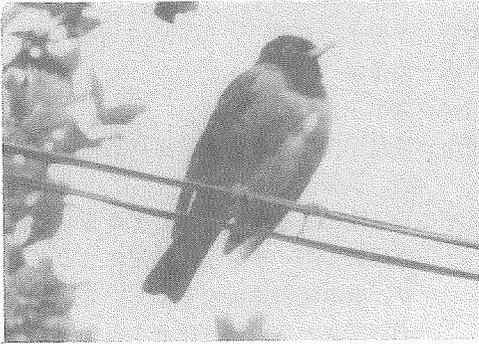
行事報告

4月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 青沼俊雄、岩波勇一、榎本秀和、海老原美夫、海老原教子、金子真理、北川慎一、草間和子、楠見文子、佐藤晶人、登坂久雄、藤野富代、吉田二三子、渡辺孝章 (14人)

4月30日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 16人 **作品発表した人** 8人



アカコッコ (三宅島探鳥会にて・青沼俊雄)

5月1日(日) 神奈川県 多摩川河口

人 25人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ
カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ
コガモ オナガガモ スズガモ コチドリ
シロチドリ メダイチドリ ダイゼン
キョウジョシギ トウネン ハマシギ ミユビシギ
アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ
チュウシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ
ウミネコ ズグロカモメ コアジサシ
キジバト ツバメ イワツバメ ハクセキレイ
ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ
シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 大型のシギが見えなかったのは残念だったが、夏羽のシギ・チをたっぷり楽しめた。運の良い人はズグロカモメも。

5月3日(祝) 寄居町 鐘撞堂山

人 66人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ
コサギ トビ サシバ チョウゲンボウ コジュケイ
キジ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ
ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
ウグイス センダイムシクイ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス (26種) 大勢の参加者に驚いたのか、早朝には見られたオオルリやキビタキは新緑の中に隠れてしまったが、サシバが上空を舞った。

5月8日(日) 熊谷市 大麻生

人 39人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ
ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ マガモ
チョウゲンボウ コジュケイ キジコチドリ
キアシシギ イソシギ タシギ コアジサシ
キジバト ヒメアマツバメ アマツバメ
ヒバリ ツバメ コシアカツバメ イワツバメ
キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
ツグミ オオヨシキリ セッカホオジロ
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (33種) ツバメたちと、普段見にくいアマツバメたちが頭上をかすめ、初めての参加者も各種の違いを納得。出ない出ないと心配していたコアジサシは最後にダイビングを披露。この日の真打だった。協賛の熊谷駅ビル「AZ」から参加者全員がすてきなお土産をいただいた。

5月8日(日) 坂戸市 高麗川

人 30人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ
コサギ カルガモ コジュケイ キジ イカルチドリ
キアシシギ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ
アマツバメ ヤマセミ カワセミ ヒバリ
ツバメ イワツバメ キセ

キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タ
ヒバリ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シ
ジュウカラ ホオジロ カワラヒワ イカル
スズメ ムクドリ ハシボソガラス (30種)
ふんだんに見られるはずのカワセミはさっぱり。そのかわりにヤマセミは、つがいで登場
の大サービス。

5月8日(日) 蓮田市 黒浜沼

人 23人 天気 曇時々小雨 鳥 カイツブリ
ゴイサギ アマサギ コサギ カルガモ
コジュケイ バン コチドリ ムナグ
ロ キアシシギ キジバト ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキ
リ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(24種) 時折小雨も降る悪条件の中、田植の
始まった田圃では、夏羽のムナグロ、キアシ
シギ、コチドリ、アマサギなどを楽しんだ。
昨年まで続いたサギのコロニーは、どこかに
引越したのか1羽も居なくて残念だった。

5月8日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

人 33人 天気 晴一時小雨 鳥 カイツブリ
ゴイサギ アマサギ チュウサギ
コサギ カルガモ コジュケイ キジ クイ
ナ バン タマシギ コチドリ ムナグロ
ウズラシギ タカブシギ キアシシギ イソ
シギ チュウシャクシギ タシギ アカエリ
ヒレアシシギ シラコバト キジバト ツツ
ドリ カワセミ ツバメ コシアカツバメ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ オ
オヨシキリ セッカ シジュウカラ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハ
シボソガラス ハシブトガラス (40種) 挨拶
前にタマシギが登場。挨拶後、すぐそばにク
イナを発見。アカエリヒレアシシギなども楽
しみ、フィナーレはカワセミで飾った。

5月14日(土) 栃木県 篤川と千本松

人 21人 天気 晴 鳥 カルガモ ト
ビ オオタカ チョウゲンボウ キジ イカ
ルチドリ キアシシギ イソシギ オオジシ
ギ キジバト カッコウ ヒメアマツバメ

アマツバメ ヤマセミ カワセミ ヒバリ
ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ク
ロツグミ ツグミ ウグイス オオヨシキリ
キビタキ コサメビタキ コガラ シジュウ
カラ ホオジロ カワラヒワ イカル スズ
メ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (39種) チョウゲンボウ数羽の
乱舞が見られ、下の木の枝にはヤマセミが止
まるという大サービス。参加者全員大満足。
千本松では、カッコウ、コサメビタキ、オオ
ジシギ、クロツグミなど夏鳥を十分楽しめた。

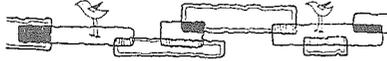
5月15日(日) 浦和市 三室地区

人 44人 天気 曇時々小雨 鳥 カワ
ウ コサギ カルガモ コガモ コジュケイ
キジ コチドリ ムナグロ アオアシシギ
クサシギ キアシシギ イソシギ タシギ
キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツ
バメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
ノビタキ オオヨシキリ セッカ シジュウ
カラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムク
ドリ オナガ ハシボソガラス (31種) 今年
もやってきたオオヨシキリやカッコウ、旅の
途中のアオアシシギやノビタキ。頭上にはイ
ワツバメの乱舞。皆を喜ばせたのは小さな大
スターのカワセミ。季節の変わり目のにぎわい。

5月15日(日) 本庄市 阪東大橋

人 28人 天気 小雨 鳥 カイツブリ
ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マ
ガモ カルガモ コガモ トビ ウズラ コ
ジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ
シロチドリ ハマシギ キアシシギ イソシ
ギ コアジサシ キジバト カッコウ アマ
ツバメ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツ
バメ ハクセキレイ セグロセキレイ モズ
オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒ
ワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (37種) 小雨にけむるニセアカ
シアの頂きで鳴くカッコウ。上空を舞うコア
ジサシ。餌をついばむキアシシギ。バードウ
イークということで、町田さんの撮ったカワ
セミの写真が配られ、御機嫌でした。

連絡帳



恐怖の季節・あいつく誘拐事件

毎年5月から7月まで、野鳥たちの巣立ちの季節は事務局の恐怖の季節。毎日毎日、多いときは数本の電話がかかってきます。

「屋根裏に鳥が巣を作っている。野鳥の会なんだから、なんとかしろ」なんていうのはそれなりの対応をしますが、いちばん多くてこまるのは、「ひなが落ちていたので保護しました。どうしたらいいでしょうか」という『善意の誘拐犯』たちからの電話です。

この季節に道ばたなどで見つけられるひなたちは見るからに弱々しく、用心深い親鳥は姿をかくしていますから、いかにも『落ちて』いるように、『親にはぐれた』ように見えるのですが、実はちゃんと親が面倒をみている巣立ちびなであることが多いのです。それを連れてきちゃうと、鳥たちにとっては『誘拐』されてしまったことになります。

傷ついている野鳥については、県内15か所の保護診療機関があります。また、その診療機関で手当を受けた野鳥が野山に帰れるようになるまで面倒を見る「里親制度」という県の制度も4月からスタートしています。

しかし『誘拐』されたひなを引き取ることはできません。誘拐犯をなくすよう、PRにご協力ください。

(「里親制度」の里親になりたい方、事務局までご連絡ください。)

題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。

香川正輝 1,000 円、笠井実 12,000 円、田中良平 400 円、秩父愛鳥会 10,000 円、松井昭吾 2,100 円と図鑑 1 冊、三宅島探鳥会 1,706 円、役員会 290 円、両神山探鳥会 4,830 円。

(50音順、敬称略)

会員数は

6月20日現在 898人です。

活動報告

5月9日 熊谷駅ビルA Z (県支部協力) パネル展「インドアバードウォッチング」展示作業に立ち合い。10日～16日開催。

5月15日 普及部会議。編集部会議。役員会議(司会・中島康夫、各部の報告、10月初めまでの行事、総会打合わせ、野鳥生態写真コンテスト、その他)。

5月18日 TBSテレビ『そこが知りたい』埼京線沿線取材に協力。

5月23日 『しらこぼと』6月号校正(大武昭雄、森本國夫)。25日も(森本)。

5月26日 県自然保護課と共催行事打合せ。

5月30日 『しらこぼと』6月号発送。



見沼用水の斜面林で、カッコウの声が聞こえて来ます。今『しらこぼと』の創刊号を非常になつかしい想いで読んでいます。

ゲラ刷りの様な紙面、白と黒で顔が判別出来ない探鳥会の写真、しかし将来の発展と希望にあふれたものでした。本号で『しらこぼと』は50号をむかえます。

これからも、会員の心と心を結ぶ会報とする様に、編集子一同努力します。(楠見邦博)

『しらこぼと』 1988年7月号(第50号) 定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 電話 0488(32)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)